

# 教育民生委員会所管事務調査報告書

## 【はじめに】

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、これまでの想定をはるかに超えた巨大地震・津波により、広い地域で甚大な被害が発生し、多くの尊い命が失われたが、日ごろの徹底した防災教育により学校管理下にいた全ての児童・生徒が無事に避難できた地域があったことで、学校における防災教育の重要性が認識されたところである。

また、本市においても、近い将来、確実に起こると予想されている東海・東南海・南海地震の3連動地震や近年多発している局地的集中豪雨などの自然災害に対し、自然の驚異を十分認識し、身近な問題として意識することが大切であり、改めて防災教育の推進が強く求められている。

そこで、教育民生委員会では、こうした背景を踏まえ、地震・風水害等の自然災害に対して適切な知識を身につけ、主体的な行動が出来る子どもに育てて欲しいという願いから、「学校等における防災教育について」をテーマに設定し、防災教育のあり方について調査・研究を行い、検討した結果をここに報告する。

## 【現状把握】

防災教育の現状を把握するため、教育委員会や市の担当部署に学校等における防災教育の内容や施設の状況、教職員の研修の状況、さらには避難場所としての学校等について資料を求め、聞き取りを行った。

### 1. 小・中学校の防災教育

- (1) 各学校では、防災教育は教育課程にはないため、特に教科書等もなく、「総合」の時間や特別活動の時間に行われているが、「総合」で取り扱う分野は多岐にわたるため、時間に制約がある。
- (2) 各学校では、年間の学校安全計画を立て、それに基づき、年1～3回の避難訓練を実施している。
- (3) 各学校では、三重県教育委員会が発行する防災に対する基礎知識が書かれている「防災ノート」を教材として防災学習を行っている。
- (4) 各学校では、学校行事の一環として、ゲストティーチャーを招き防災に関する学習会の開催や校外学習等を実施している。

### 2. 学校施設等の安全性

- (1) 各小・中学校の耐震化については、現在耐震工事中の白川小学校を除き、工事が必要な施設は全て終了している。
- (2) 各保育所については、全て耐震強度の基準は満たしているものの、全体的に老朽化が進んでおり、平成23年9月には、当委員会から各保育所の移転も視野に入れた改築・改修の年次計画を立てて整備するよう提言したところである。
- (3) 学童保育所については、一部に耐震強度の基準に満たない施設がある。

### 3. 避難場所としての学校

- (1) 全ての学校施設は、各地区の代表・指定避難所となっているが、防災倉庫が併設されていないところが一部ある。
- (2) 各学校には、災害時に保護者への児童・生徒の引渡しが出来ず、学校に待機となった場合に備え、児童・生徒全員の1回分の非常食が備蓄されている。

### 4. 教職員の研修

- (1) 教職員として10年経験者は、防災教育についての研修を受講するほか、危機管理意識の向上を図るための研修も行われている。

### 5. 過去の災害

- (1) 亀山市における過去の災害について、執行部に資料を求めたが、一括では管理されておらず、危機管理室及びまちなみ文化財室からそれぞれ提出された災害年表でしか災害の歴史を確認できない。

## 【行政視察等】

教育民生委員会では、調査・研究テーマに沿った先進地として、平成25年5月21日、22日に神戸市、兵庫県、南あわじ市立阿万小学校を視察した。

また、東日本大震災の津波による犠牲者を最小限に抑えたことで、「釜石の奇跡」と言われた釜石市での防災教育の成果を紹介したドキュメンタリー番組を鑑賞した。

#### 1. 神戸市

神戸市は、大震災の教訓をもとに、防災に対して高い意識を持ち、「自分の身は自分で守る」という危機回避能力を身につけることや家族や地域との絆の大切さを育む教育に取り組んでいる。

また、防災意識には個人差や地域差という温度差があり、「思いの共有化」を図るために副読本を作成し活用している。

さらに、防災教育とは言い換えれば「命を守る教育」であり、教育の根幹であることから、教科との関連を図り、工夫して指導に当たっている。

#### 2. 兵庫県

兵庫県には、震災復興支援チーム「アース」という組織があり、毎年、希望する教職員が研修を受けるとともに、県内外で災害が発生した場合、避難所となった学校の復興を支援する活動などを行っている。

#### 3. 南あわじ市立阿万小学校

南あわじ市立阿万小学校では、避難訓練の場所を慣例の学校から、地域の実情に合う場所（高台）へ変更し、年に何回も避難訓練を行い、訓練の様子は、地域や家庭にも情報発信して共有化に努めている。

また、どこにいても、1人の時も、まずは高台へ逃げるというルールを決め、習慣化させ、避難訓練を重ねる中で、子どもたちに自然に危機回避能力を身に付けさせるとともに、命の大切さや思いやり、助け合いの心を育くませている。

#### 4. 「釜石の奇跡」のDVD鑑賞

釜石市での防災教育の成果を紹介したドキュメンタリー番組のDVDを鑑賞した。「想定にとらわれるな」「最善を尽くせ」「率先避難者たれ」という避難3原則をもとに展開された釜石市での防災教育では、知識を与えるだけではなく、自らの命を主体的に守るため、自ら判断して意思決定をして行動する「姿勢」を身につけることが重要とされている。

そして、そのことにより、自然の驚異に向き合う姿勢を持ち、自ら率先して避難をすることは、結果として周りの多くの人の命を守ることに繋がっていくものであるということを学んだ。

#### 【市民との意見交換会】

平成25年7月29日に教育委員会委員5人と、また8月1日に市内3中学校の生徒代表10人と意見交換会を行った。

##### 1. 教育委員会委員より出された主な意見

(1) 防災教育に対する考え方について

- ①知識も大切だが、災害が起きたときに適切な判断が出来るように、訓練、経験を積み重ねることが大事。
- ②法律に則って、各学校では安全計画を策定しており、その中で防災教育に取り組んでいる。
- ③指導者の育成も大切だが、子どもたちに自己判断能力を身に付けさせることが重要。
- ④学校は避難所となるので、学校側の協力体制が必要。
- ⑤朝の会、帰りの会、ホームルームなど、折に触れ、タイムリーな指導を行うことが大切。
- ⑥教職員自らが、被災の体験や被災地の支援に参加したことなどを語ることで、子どもたちは真剣に向き合ってくれる。
- ⑦過去の災害の資料を教材化するなど、地域の歴史から学ぶことが大切。
- ⑧防災教育は、学校、家庭、地域が協力して取り組むべきである。

##### 2. 生徒代表より出された主な意見

(1) 東日本大震災の被災地の様子を見た感想などについて

- ①復興に向けて頑張っている人々の姿を見て、自分も現地へ行って手伝いをしたいと思った。
- ②日ごろの備えが大事だと認識した。

(2) 「防災ノート」の活用状況について

- ①防災ノートをもとに家族と話し合い、避難場所の確認等を行った。
- ②防災ノートは、授業で使ったがほとんど記憶に残っていない。

(3) 避難場所について

- ①通学途中や家など、学校以外にいる時の避難場所がわからない。

(4) 日ごろから、自分の周りで危険と思うところについて

- ①通学路にある川が氾濫するのではないか。
- ②古い橋が壊れそう。
- ③近くの山や崖で崩れそうな場所がある。

(5) もしも、大きな災害が起きた場合、自分に出来ることについて

- ①避難所などで、高齢者や小さい子どもの手助け。
- ②救援物資の荷物運びや瓦礫の撤去。

### 【検討結果のまとめ】

教育民生委員会では、調査・研究テーマに掲げた「学校等における防災教育」について、延べ12回にわたり協議し、検討した結果の課題・問題点は次のとおりである。

1. 学校において「防災教育」は、教科ではないので、総合の時間等を活用し指導を行っているが、総合学習で取り扱う分野は多岐にわたるため、時間的な制約があり、子どもたちへの意識づけに十分な時間が取れない。
2. 子どもたちの防災意識を高めるとともに、家族の防災意識の向上、防災対策の充実を図ることを目的に作られた「防災ノート」を教材として使用しているが、学校や家庭において十分に活用されていない。
3. 災害が発生した場合、学校施設は避難所となるため、教職員も地域や行政職員と連携して、避難所の運営に関与することについて、意識改革が必要である。
4. 教職員は、地域と連携して、それぞれの地域の危険箇所の把握等に努める必要がある。
5. 防災教育を指導する側、受ける側双方ともに、地域差や経験により防災意識に温度差がある。それが、防災教育を進める上で、支障となっていることから、「思いの共有化」を図ることが必要である。
6. 自然災害から身を守るために、子どもたちに地域の特性を把握させるとともに、いつ、どこで、どのような災害に遭うかもしれない中、地震や風水害だけでなく津波などの災害からも身を守るための知識を身に付けさせる必要がある。
7. 過去の災害の歴史、教訓を後世に残すとともに、そこから学び取る防災教育を行う必要がある。

よって、亀山市の未来を担う子ども達が、「亀山市では大丈夫」、「自分は大丈夫」と思ってしまう「正常性バイアス」に惑わされることなく、自分の身は自分で守るという意識を持ち、率先垂範の行動が取れる人に育てて欲しいという思いと、それを未来につなげて欲しいという願いを込めて、下記のとおり関係機関に対し提言を求める。

#### ※正常性バイアス

社会心理学、災害心理学などで使用される用語。

多少の異常事態が起きてもそれを正常の範囲内としてとらえ、心を平常に保とうとする働き。暴風雨被害や津波などのあらゆる事態に対して、「きっと大丈夫」という判断をしてしまいかねない。

### 記

1. 「防災教育」は教科ではないため、学習時間が制約されていることから、学校生活の中で折に触れ指導を行い、継続的に児童・生徒の防災に対する意識の向上に努められたい。
2. 防災に関する教材は、一過性に終わることなく、繰り返し活用するとともに、体験や映像による学習を取り入れ、児童・生徒の心に強く残るよう創意工夫をされたい。
3. 「防災教育」は学校だけで学ぶものではなく、学校、家庭、地域、行政が連携して取り組むとともに、誰もが防災に対する「思いの共有化」を図ることができ、さらに防災の知識が習得できるような環境を整備されたい。